

# アスパラガス



## 育苗

播種床(培土)



なるべく本圃と同じ地力作りをしておく。(N控えめ、Caはシッカリ)

育苗中(2~3ヶ月)



- 根っ酵素1000~500倍液を葉上からタッブリ染込ませる。
- 花咲くCa液を半月ごと、交互に。

(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法
定植前の地力作り (10年分の基盤を準備)	なるべく早く、深く耕耘しておく(最低限、定植迄に1ヶ月以上おく)  ※畑の排水に注意 有効土深40cm以上、 地下水位50cm以下 が必要(最低限)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ラクトバチルス1.2kg</li> <li>●有機物・堆肥20トン(なるべくカヤなどの植物質を多く)</li> <li>●硫安100kg(有機物のCN比によって増減)</li> <li>●畑の大将&lt;青&gt;100kg~200kg</li> </ul> <p>※深層まで土壌が酸性にならないように、畑の大将&lt;青&gt;をしっかり投入する。ただし、酸性中和は以後10年分の中和を一度にしておく訳ではなく、現時点の土壌pHを6.0前後にしておくだけで、以降の施肥を酸性化しないように行う。従って地力作り時に通常の石灰を200kgも投入して微生物を殺すような事はしない事。</p> <p>※有機物が菌の活動で有効化するの、通常、肥料は硫安を、地力作り時に加えるだけで充分。もし堆肥の量が少なかったり、痩せ地でNPK分の複合肥料を使う場合は、チッソ成分20kg程度とし、地力作り時に投入するか、定植までに20日以上期間をおく事。</p> <p>※1ヶ月のうちに土壌EC:0.2以下に落ち着き、定植苗がよく発根するような安定した土になる。</p>
定植 (3~5月・10月)	定植7日前	●花咲くCa液500倍を葉上から根元まで散布 → 苗の充実。
	定植時	●根っ酵素500倍液をドブ漬けまたは灌水 → 発根の強化。
1年目	灌水・葉面散布(半月ごと)	●根っ酵素1~3ℓ ●花咲くCa液500倍
	追肥(7・8・9月)	●硫安20kg ●畑の大将<青>20kg 同時施用する。(N過多にしない)
2年目以降	秋、茎葉の黄化 (11月のCa散布)	茎葉の蓄積養分が地下部へ転流し、茎葉が黄化する。この作用は夏からのカルシウムの効きによって促進されるが、いつまでも葉が青い(N過多)なら、花咲くCa液300倍の葉面散布を5日間隔で行う。

(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法
2年目以降  ※収穫中、灌水は少回数でも、1回の灌水量を多くし、土深くへ染込ませる  酵素液を加用の事(ただしラクトバチルス効果で排水・通気が良い畑である事)	12月上旬～茎葉刈取り時 毎年の地力作り  (萌芽までに15日程必要。もし刈取りが遅れすぎたらラクトバチルスは投入せず、カルシウムだけは施用)  ※地力回復と地温上昇	完全黄化したら 刈取りし、原則として全て茎葉は畑に還元するこの時、下記3つを散布し、ウネ土と軽く混ぜてウネを作り直す。  ●ラクトバチルス600g ●硫安20kg (チッソ成分が多すぎる場合は米ヌカ15kgを) ●畑の大将<青> 40～60kg (土壌pHが酸性なら増量)  ※茎葉を醗酵させて地力回復。すぐに根に効かせることではない。ラクトバチルスの作用で、根に障害なく、安全に醗酵・分解する。 ※よほど病虫害が激発した畑だけは茎葉を焼却し、かわりに堆肥500kg程を投入する。この際、根を切らないよう注意。
	12月末～萌芽開始迄	12/25以降、休眠打破、萌芽確認後、保温開始時にタツプリ灌水する。 ●根っ酵素液2ℓを加えて灌水し、地温を上げ、萌芽を揃える。
	春芽(収穫中)の促進 (貯蔵養分による萌芽)	●根っ酵素液2ℓを灌水(半月ごと) ※とくに土の排水不良や乾燥で根腐れ、曲がりや穂先の開く場合はすぐに灌水で回復する。
	夏秋芽前(親茎育成)の施肥[礼肥]	春芽の収穫開始後55日頃、親株を6本前後、立茎し施肥する。 ●マンゾク粒状30～50kg ●硫安40～60kg ●畑の大将<青> 20～40kg (施用量は状態により加減) ※冬に投入できなかった場合はラクトバチルス600gも。
	夏秋芽(収穫中)の促進	●根っ酵素液2～5ℓ 灌水 月1回(特に摘芯後→茎枯防止) ●花咲<Ca液500倍 葉面散布 春芽後半から半月ごと。(増糖)
	追肥 7～9月、月1回	●硫安20～30kg (収穫300kgごとN:3kg) より月ごと。 ●畑の大将<青> 20～30kg ※特に9月にはカルシウム多めに。